営農情報

水稲

～有効茎確保後は幼穂形成前に中干しを行い、その後生育・栄養診断に基づいた適切な穂肥を実施しましょう～

充実した茎を確保するため、有効茎数（目標穂数80～100％）を確保したら、速やかに中干しを実施、溝掘りも積極的に行いましょう。

水管理について

【中干し後の水管理】

間断湛水を実施する際、急激に湛水状態にして土を柔らかくすると、根を傷めますので、少しずつ慣らすようにしてください。また溝切りを実施した圃場では、溝を走らせる程度の灌水を行ってください。

【低温対策の水管理】

幼穂形成期から減数分裂期の間に低温が続くと、障害不稔の発生が懸念されます。あらかじめ低温が予想される場合には、幼穂形成期に入ったら、10㎝程度の水深で10日間ほど湛水管理を実施してください。その後は出穂前15日前から5日前ごろまで、20㎝程度の深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

【高温対策の水管理】

気温が30℃以上になったら地温を下げ、根の活力を維持する水管理が必要となります。地温を下げるには、掛け流しや水の入れ替えが理想です。

穂肥について

幼穂形成期から減数分裂期にかけての追肥は、収量や品質を左右する『穂肥』として有効です。ただし減数分裂期以降の追肥は、食味の低下を招くので、控えるようにしましょう。

◎穂肥の判断（10ａ当たりのチッソ成分）

生育量	幼穂形成期	減数分裂期
かなり不足	2kg	2kg
やや不足	1～2kg	2kg
理想	ムラ直し1kg	2kg
やや過剰	なし	1～2kg
かなり過剰	なし	ムラ直し1kg

あきたこまちの幼穂形成期（7月15日頃）、
〃　　減数分裂期（7月25日頃）

斑点米カメムシ類防除

農道・畦畔雑草の刈り取りは、イネが出穂する10～15日前までに数回行い、その後収穫2週間前までは草刈りをしないようにしましょう。グラスショート液剤（抑草剤）を散布すれば、40～50日の抑草効果が期待できます。出穂後、やむを得ずに草刈りを行う場合は、畦畔を含む水田全面に殺虫剤を散布し、その直後に草刈りを行うようにしましょう。

近年、管内ではアカスジカスミカメ（アカスジ）の発生増加が見られますのでご注意下さい。